



医学部・附属病院合同災害訓練の実施報告

災害医療・危機管理センター長 渡部 広明
わたなべ ひろあき

10月10日(火)、医学部および附属病院の合同大規模災害訓練を実施いたしました。訓練は震度6強の地震が島根県東部に発生したという想定で行いました。

今回の訓練のテーマは、「情報伝達の強化」とし、現場情報を的確かつ迅速に災害対策本部に挙げ、そして本部の意思決定を現場に速やかに伝えるための一連の流れを訓練しその体制の検証を行いました。発災とともに、初動組織であるDiMCOC (Disaster Medical Crisis Operations Center: 災害医療・危機管理センター) 災害初動本部が立ち上がり、災害対策本部設置の可否を判断して発災から15分前後で災害対策本部が設置されました。

今回の訓練では初めて院内ネットワークを使用した災害情報システムを活用して、各病棟や外来などの被災情報の収集、院内にいる各診療科の医師数調査、トリアージエリアの傷病者の情報を自動集計し可視化するシステムを導入してその使用の可否についても検証しました。過去の巨大地震の大半で院内ネットワークが活用可能であったという事例をもとに本システムが開発されましたが、院内ネットワークが活用できる環境であれば本システムで速やかな情報収集が可能であることが検証されました。今後さらに良いシステムとなるよう改修を進めて参ります。

地震災害で被災した傷病者を速やかに受け入れる「現地診療指揮所」では、トリアージエリアと救護所を設置しての診療訓練を行いました。今年も医学生が傷病者役ボランティアとして参加してくれました。さらに今年は各病棟での被災後の対応についての訓練案を募集し、病棟災害訓練も実施しました。患者避難の判断や被災したエリアでの診療継続など災害時の病棟対応の手順を確認しました。当院では附属病院を挙げて災害対策に取り組んでいます。万が一に備えて速やかに災害負傷者への医療提供ができるよう定期的な訓練を続けて参ります。



問合せ先 災害医療・危機管理センター TEL: 0853-88-3040

